

2050 年のネットゼロ実現へ CO₂ 排出量、長期目標設定



▲屋根に取り付けた太陽光パネル（キッコーマンフードテック）

キッコーマンは 2030 年に向けた環境ビジョン「キッコーマングループ長期環境ビジョン」を策定し、持続可能な社会の実現に向けて、長期的に取り組む分野、テーマ、目標を定め、グループにおける環境活動を強化している。

長期環境ビジョンに基づき取り組みを進めているのは、気候変動、食の環境、資源の活用の 3 分野だ。特に気候変動では、CO₂ 削減をテーマとし、30 年までに 18 年度比で CO₂ 排出量を 30% 以上削減することを目標としている。この目標達成をめざし、プロセス改善、エネルギー効率の高い設備の導入、再生可能エネルギーの活用や技術革新などの施策を推進している。

気候変動、CO₂ 削減については、パリ協定で示された長期目標を踏まえ、2050 年の CO₂ 排出量ネットゼロ実現をめざす目標を設定済み。その一環として「30 年までに 30% 以上削減」に向けた取り組みを推進している。すでに SBT（Science Based Target）へのコミットメントを行っており、今後、認定を取得するための準備を進める。将来的な技術革新にあわせて中長期の CO₂ 排出量削減計画を適宜更新していく考えだ。

CO₂ の排出量を削減するための活動を進める中で、再生可能エネルギーの活用が広がっていることもポイントのひとつだ。

これまでに、キッコーマン野田本社、キッコーマン中央研究所、キッコーマン総合病院、生産工場などで使用する電力を再生可能エネルギー由来

のものに順次切り替えており、国内外で多くの CO₂ 排出量を削減した。

さらに工場の屋根などに設置した太陽光発電設備（太陽光パネル）で太陽光（エネルギー）からクリーンな電力を作り出し、この電力を生産活動に利用することにより、CO₂ 排出量の削減に努めている。10 年度からキッコーマン食品野田工場製造第 2 部（現キッコーマンフードテック）、KFI（アメリカ）のカリフォルニア工場、埼玉キッコーマン（埼玉県久喜市）に順次太陽光発電設備を設置し、これらの設備から得られる電力（20 年度実績約 201MWh）を利用することで、年間の CO₂ 排出量を削減している。

地球温暖化防止、CO₂ 排出量削減のための活動に加え、水環境の保全のための活動にも積極的に取り組んでいる。その中で社外評価システムの活用が進んでいることもポイントのひとつだ。

17 年度から「CDP ウォーター質問書」に回答し、自社の環境保全活動、特に事業活動に伴う用水量の削減や水資源・水環境の保全などの取り組みが世界的にどのような水準にあるのかを客観的に把握するためのツールとしても活用している。「CDP ウォーターセキュリティ」における 20 年度の評価結果は、リーダーシップに分類され、19 年度に続き最高評価の「A リスト」に選定された。グループで推進している用水量の削減や水環境の保全に関する活動の進捗管理などが高く評価された。